

## 2025年度 一般選抜 I 期(1/29) 国語 出題意図

### 大問一 出題意図（問題一全体）

問題文は、民藝運動の父による「工藝」の美的価値に関する論考である。近代以降、美術（Fine Art）のみが美とされ、工藝が軽視されてきた歴史を批判し、中世ゴシックや東洋仏教美術に見られる「伝統」や「秩序」の美を再評価している。個人主義的な「天才の美」と対比させ、筆者の主張する「工藝の美」の構造を理解する力を問うた。

### 出題意図（個別問題）

問一：文脈に適した熟語（湾内、勃興、遡上など）を選択する語彙力を問うた。

問二：空所補充。「忘却」や「抹殺」に近い文脈で、工藝の意義が無視されてきた状況を表す語句（抹殺、閑却等）を補う力を問うた。

問三：空所補充。美が「実用」から遊離したものであるという近代美学の偏見を読み取る力を問うた。

問四：空所補充。中世において美が「宗教」や「生活」と交わっていた文脈を理解す

る力を問うた。

問五：空所補充。自由の美に対する「秩序」の美という対比構造を把握する力を問うた。

問六：記述問題。「自力美」と「他力美」の対比において、工藝が個人の才能（自力）ではなく、伝統や自然の秩序（他力）に委ねる美であることを説明する記述力を求めた。

問七：空所補充。人間中心主義ではない工藝が「卑下」あるいは「排除」された文脈を読み取る力を問うた。

問八：空所補充。近代美学が放棄しなければならないもの（秩序や伝統）を文脈から判断する力を問うた。

## 大問二 出題意図（問題二全体）

問題文は、日本社会を支配する「空気」という同調圧力の正体を、ハイコンテクスト文化の視点から分析したものである。明文化されたルールではなく、その場の空気が絶対的な掟として機能するメカニズムや、日本人が神さえも都合よく改変してしまう精神性を指摘している。現代社会の曖昧さとその文化的背景を論理的に読み解く力が

求められる。

### 出題意図（個別問題）

問一：文脈に適した熟語（示唆、把握、醸成など）を選択する語彙力を問うた。

問二：空所補充。「空気」とは明示されない「曖昧な掟」であることを理解する力を問うた。

問三：論旨把握。日本においては神よりも「人間」の都合が優先されるという筆者の主張を読み取る力を問うた。

問四：理由説明。人間が神を勝手に改造すること（「不遜なこと」）の具体例（神社の変質など）を本文から特定する力を問うた。

問五：空所補充。高コンテキスト文化における「阿吽の呼吸」や「以心伝心」に相当する語句（目配せ等）を補う力を問うた。

問六：空所補充。低コンテキスト文化が「明瞭な意思疎通」を意味することを理解する力を問うた。

問七：内容合致。高・低コンテキスト文化に関する筆者の定義と、本文の内容との整合性を判断する力を問うた。

### 大問三 出題意図（問題三全体）

動物を用いた慣用句や、論理的思考・感情表現に関わる四字熟語の知識を問う問題である。

#### 出題意図（個別問題）

問一：慣用句（馬脚を露す、おしどり夫婦、一寸の虫など）において、適切な動物名を補う知識を問うた。

問二：四字熟語（意気揚々、内憂外患、百家争鳴、臨機応変、興味津々）の構成要素となる漢字を選択する語彙力を問うた。